

我が国の成長戦略に向けた 国際標準化検討調査業務

調査報告書 (全体版)

令和8 (2026) 年3月



内閣府
知的財産戦略推進事務局

Agenda

- 1) コンテンツ産業における国際標準化の活用可能性の調査・分析
- 2) 標準人材のキャリアパスに向けた調査・分析
- 3) 海外における国際標準化支援策の調査・分析
- 4) 成長戦略の観点からの国際標準活用事例、公共調達・補助金活用事例、国際標準に係るデータ整備の調査・分析

「コンテンツ産業における国際標準化の活用可能性の調査・分析」の内容

別冊資料（全体版）をご参照

Agenda

- 1) コンテンツ産業における国際標準化の活用可能性の調査・分析
- 2) 標準人材のキャリアパスに向けた調査・分析
- 3) 海外における国際標準化支援策の調査・分析
- 4) 成長戦略の観点からの国際標準活用事例、公共調達・補助金活用事例、国際標準に係るデータ整備の調査・分析

標準人材について目指すべき方向性 (まとめ)

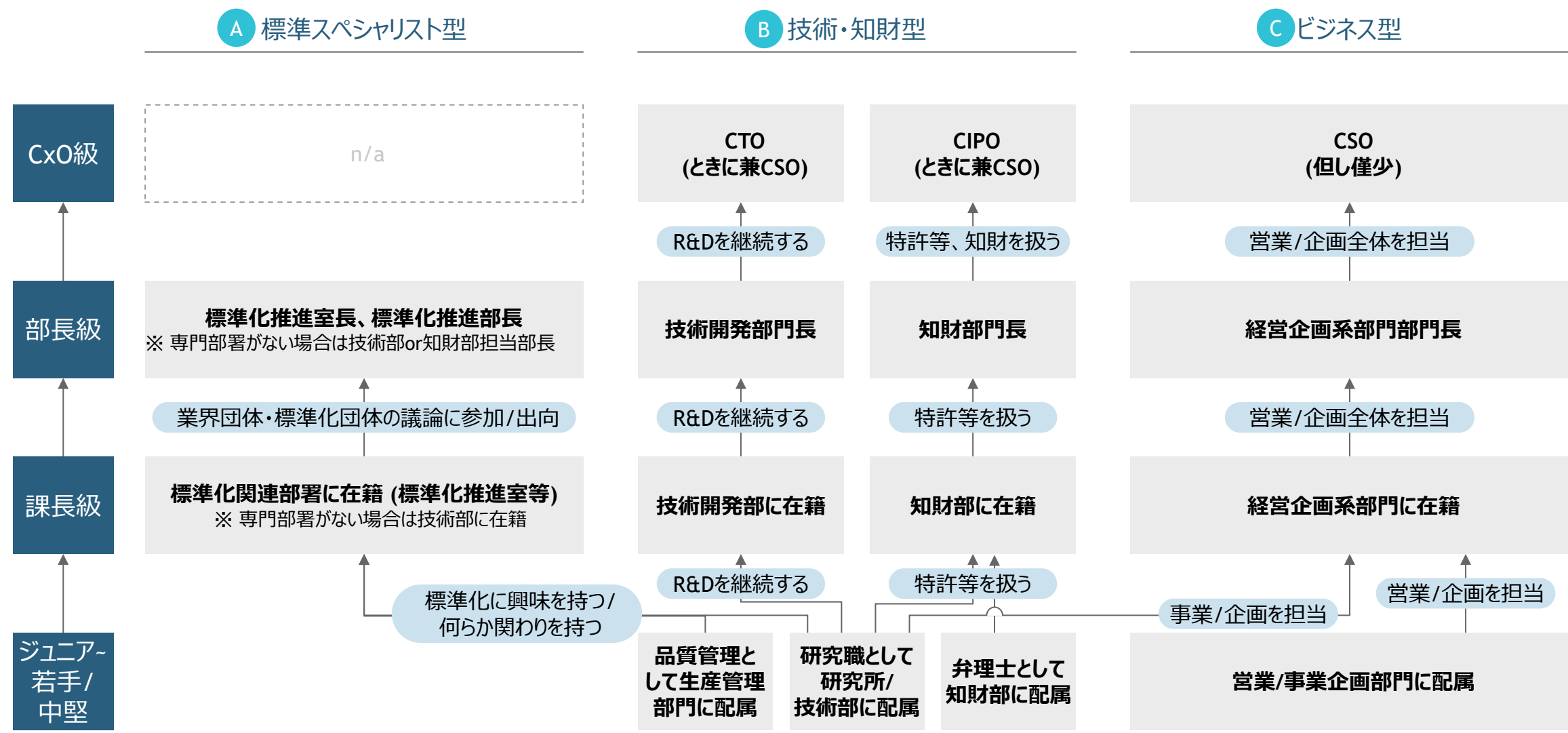


- 現状、標準人材は、大きく、「A 標準スペシャリスト型」、「B 技術・知財型」、「C ビジネス型」の3つの類型があると整理される
- 一方で、それぞれのキャリアや知見が断絶してしまっている場合が多い
 - 特に「A 標準スペシャリスト型」が事業戦略と連携できず社内でタコツボ化してしまっている、という課題や、「C ビジネス型」が既存の規制/規格やルールを所与のものとして捉えている
- この背景には、「標準が儲かる」という認識が不足しており、トップのコミットメントも得られないため標準が全社的な取組になっておらず、十分な組織体制や人事制度・育成計画が確立されていないということが挙げられる
 - 標準化は市場主導権の確立や競争力強化に直結し、その実現には専任組織と人材を軸とした全社的な体制構築を行う必要がある
- 一方で、国内外で「標準」をうまく活用し、収益を得ている企業は存在している
 - ニッチトップやグローバル標準に準拠した技術を保有する企業をはじめとして標準化を一層推進していく必要がある
(事例は別の調査事業の結果も踏まえ、引き続き追加を検討)
- よって、この認識に立った上で、トップのコミットメントの下、全社的な取組として事業戦略と結びつけた上で標準化に取り組み、キャリアパスを明確に示した上で人材を育てていくことが重要である
- 標準に関連する高度人材としては、具体的には、下記3つが挙げられ、それが適切に育成されるよう取り組んでいくことが重要
 - 事業戦略と標準の観点を合わせたジェネラルな視点を持った「CSO」
 - 各種規格の策定戦略・実務に詳しい「規格策定スペシャリスト」
 - ルールを形成・改定し、策定した規格を普及させる「ルール形成・社会実装スペシャリスト」
- 上述の取組を進めていくためには、特に標準化活動の裨益が大きいと考えられる企業を特に中心に、他省庁とも連携し人材育成/活躍機会創出に向けた支援を重点化していくことが重要
 - 「規制適合・公共調達要件」が市場を決める領域のプレイヤーや、「グローバルニッチトップ技術」を有するプレイヤーが想定される



As Is (現状) の典型的なキャリアパスイメージ

キャリアパスは、現状、「標準スペシャリスト型」、「技術・知財型」、「ビジネス戦略型」の3つの類型があると整理される



As Is (現状) のキャリアパスの課題



現状、それぞれのキャリアや知見が断絶しており、特に、「A 標準スペシャリスト型」が社内でタコツボ化し、事業戦略と連携できていない、という課題が顕在化している

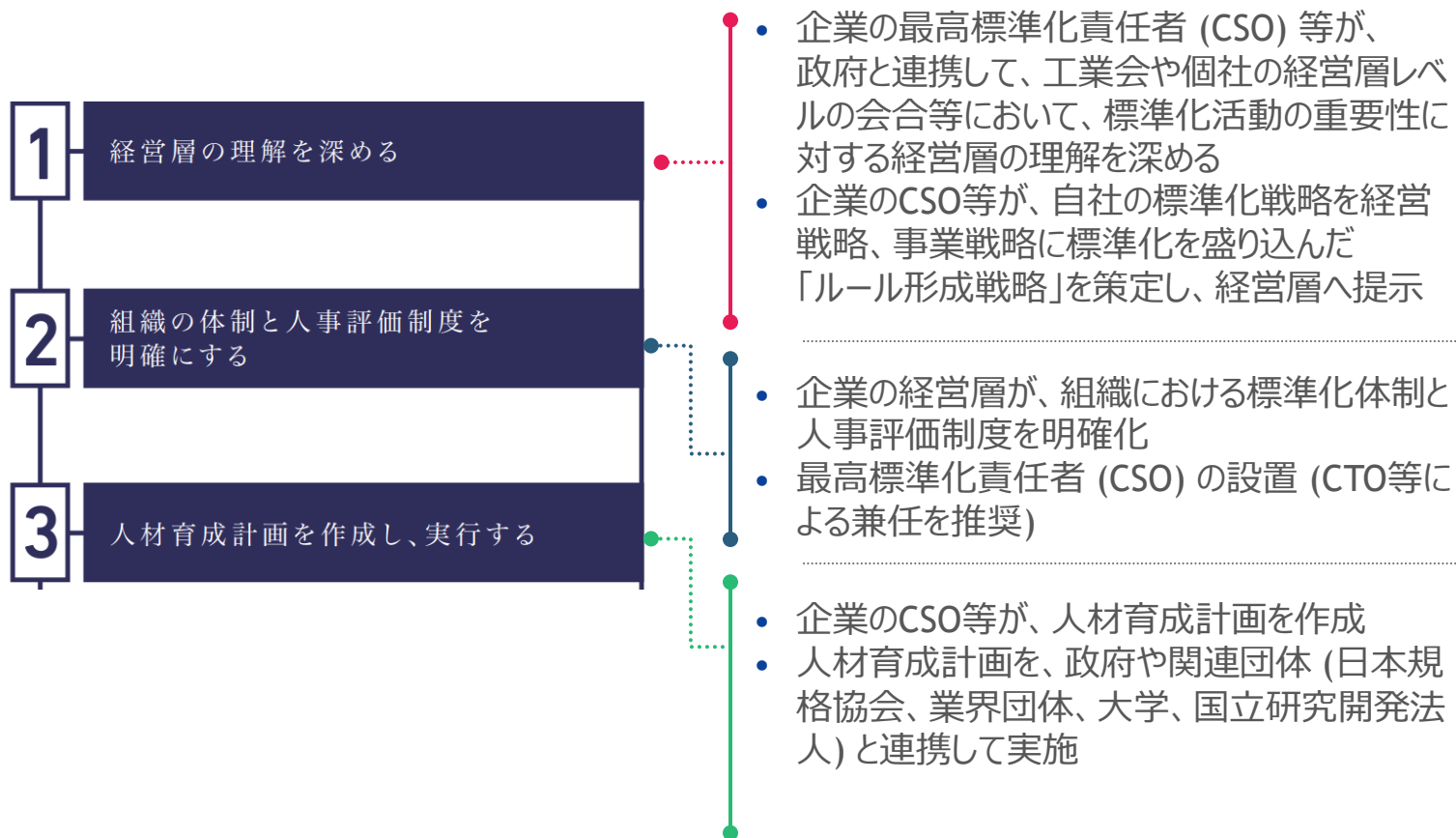


(参考) 経済産業省策定のアクションプランと対応する事例



標準化人材の育成には、まず経営層の理解を深め、次に組織体制・人事評価制度を整備し、その上で人材育成計画を実行するという、経営・制度・人材を一体とした取り組みが必要である

標準化人材を育成するアクションプラン



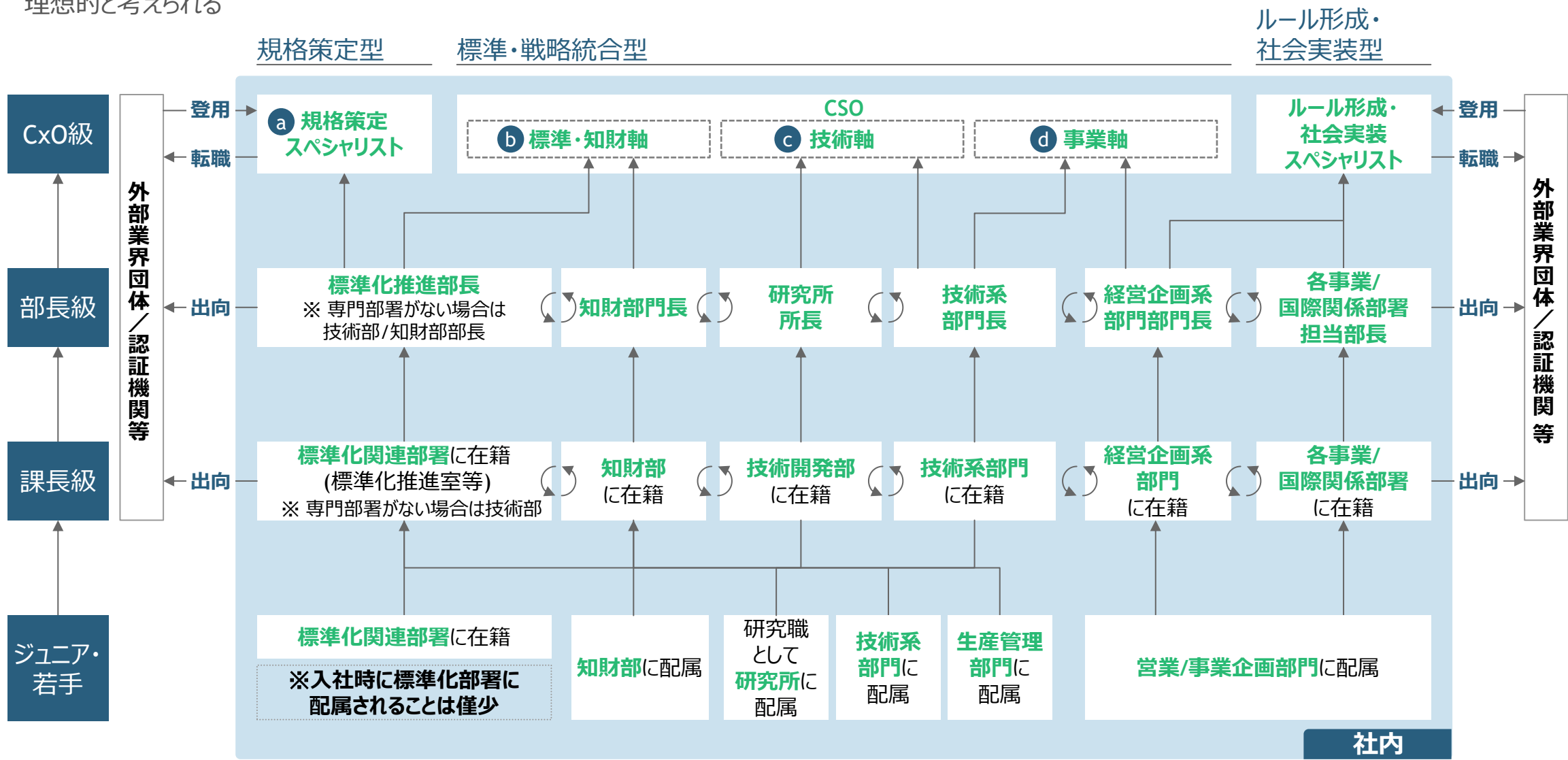
対応すると考えられる事例

- mil-kin (経済産業省経営戦略と標準化 事例集)
 - 社長が規格原案委員会に訪問し、自らビジョンを説明し、ステークホルダーを巻き込み
- 小松マテーレ (経済産業省経営戦略と標準化 事例集)
 - 経営層が社会課題解決型事業の成長に注目し、積極対応を指示
- 三菱電機 (経済産業省 R7産業標準化事業表彰)
 - 標準化を促進するための社内体制を構築・強化する取組によって表彰
- 三菱電機 (経済産業省 R7産業標準化事業表彰)
 - 標準化資格や教育プログラム、表彰制度を整備



To Be (あるべき) のキャリアパス - 役職及び主なルート

キャリアパスは、標準・知財・技術・ビジネスに関するノウハウを横断的に会得する統合型と、規格の策定・普及を担うスペシャリストがそれぞれ存在することが理想的と考えられる





To Be (あるべき) のキャリアパスで求められる主な役割

「規格策定」/「ルール形成・社会実装」は個別の標準/ルールの具体化が求められる一方、CSO は全社戦略と標準を統合することが求められる

ルール形成・
社会実装型

規格策定型

標準・戦略統合型

CxO級	分野別標準戦略を描き、自社技術を国際ルール化する意思決定を実施	- 標準を用い市場形成/収益実現をしていくための全社戦略 (オープンクローズ含む) の策定 「デファクトを使うか、デジュールを使うか」、「どこで収益化するか」の判断 等 - 販売・投資・提携戦略まで踏まえた標準化戦略の設計 - 業界団体との関係の構築、各国政府機関との合意形成				- 市場/エコシステム形成に係る戦略策定 - 政府・業界団体への合意形成
部長級	【共通】全社メッセージと現場の取り組みの整合性確保と上位方針のわかりやすい翻訳・共有を行い、標準化活動に取り組む意義を明確化					
	- 国内委員会/国際会合 (ISO/IEC等) の運営 - 各国政府・標準化機関との信頼関係を構築	- SEP (標準必須特許) の形成 - 標準・知財と事業の接続	- R&D戦略・ロードマップの策定 - 標準化候補技術の創出・選定	- 標準に基づく製品・サービス実装 - 自社技術の規格適合・認証取得	- 標準化を絡めた事業戦略の策定 - 標準活動のROI/リスクの可視化	- 政府調達要件や規制への規格引用 - 各国の政策先読み - 認証機関との連携
課長級	【共通】技術理解を前提とした標準化活動全体の俯瞰と構造化、社内外への説明方針の整理および、これらを通じた標準化活動の重要性の浸透					
	- 国内委員会/国際会合 (TC/SC/WG) に参加 - 社内技術の規格案への落とし込み - ミラーコミュニティのリーダー格	- 知財実務の遂行 - 発明抽出→出願→管理等	- 技術担当者としての委員会参加 - 研究の現場監督	- 標準化に必要なデータを整備 - 規格の実装責任者	社内戦略と標準の接続の検討	- 国際的な渉外担当/コンセンサス形成 - 海外販売戦略の検討
ジュニア~若手/中堅	【共通】各所属コミュニティで信頼と影響力の構築					
	標準化担当者 コントリビューション作成 ※入社時に標準化部署配属は僅少	弁理士 特許の基礎実務	研究所 研究のメインの担い手	技術系部門 開発の基礎実務	生産管理 生産管理の実務実務	営業/企画 - 非技術系ルールの交渉・合意形成 - 規格活用の実装 (認証取得 等)



To Be (あるべき) の各キャリアステップで求められるスキル

「規格策定」/「ルール形成・社会実装」が、交渉力/ネットワーク等が求められる一方、CSO は全体を俯瞰する設計力/プレゼンスが求められる

ルール形成・
社会実装型

規格策定型

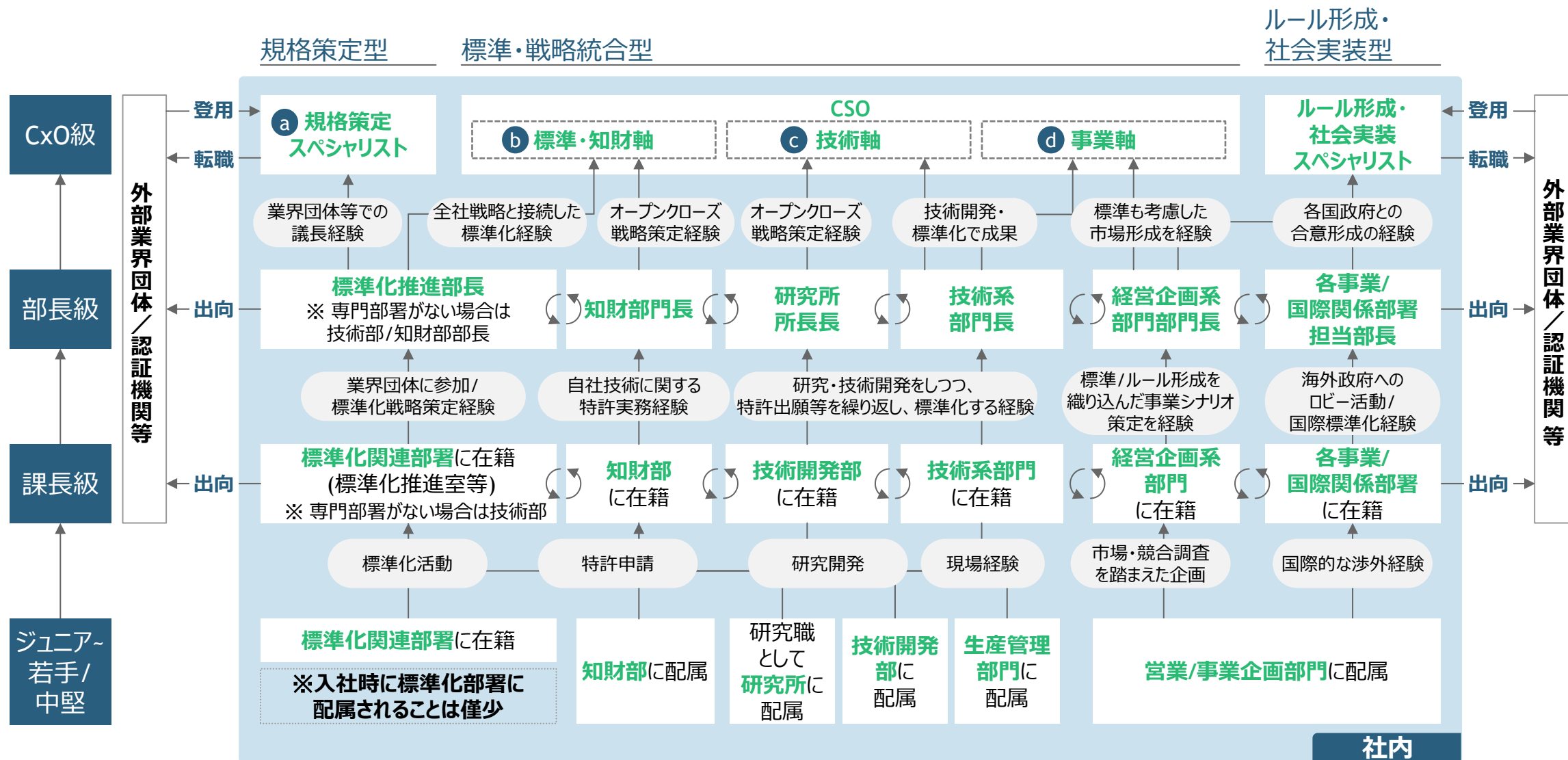
標準・戦略統合型

CxO級	- 国際標準化のルール/交渉構造の理解 - 外部とのネットワーク(標準化団体等)	- 収益モデル設計とルール形成の統合能力(市場形成力) - デファクト/デジュール使い分けとIP活用判断のノウハウ(オープンクローズ含む) - 政府機関・業界団体でのプレゼンス				- 外部連携力 - 地政学・政策動向を踏まえた交渉 - マーケティングスキル
部長級	【共通】経営層のメッセージを翻訳し、部下に落とし込むための発信力と、社内外の各部署との合意形成を含めた調整能力					
	- 国内委員会/国際会合(ISO/IEC等)の運営 - 各国政府・標準化機関との信頼関係を構築	- 特許戦略設計力 - オープンクローズ戦略の知見	標準化・知財と連動した技術ロードマップの策定能力	- 標準と接続した開発戦略策定力 - 市場起点での規格活用力	- 標準と接続した経営戦略構築力 - 対外交渉力(業界・政府)	- 各国政府・企業との強固なコネクション - 合意形成力 - マーケティングスキル
課長級	【共通】標準化活動を行うの前提となる技術への理解と社内への調整力					
	- 仕様/合意文書の起草 - 社内の各部署との合意形成をするためのファシリテーション力 - 国内外のコミュニティでの関係の構築力	- 知財の関連手続/メカニズムの理解 - 知財で稼ぐスキームの理解	- 自社技術を仕様化する力 - R&Dに関するマネジメント力	標準化・知財と連動した技術開発の知見	- 事業の設計能力 - ルール形成のメカニズムの基礎的な理解	- 語学力・海外文化理解 - マーケティングスキル
ジュニア~若手/中堅	【共通】標準化コミュニティで信頼と影響力を築くための技術・標準への理解・英語力・非公式場面での関係構築力					
	標準化担当者 標準化活動の基本的な実務スキル	弁理士 - 最低限の技術理解 - 特許申請実務	研究所 - 技術理解 - 技術を文書化する力	技術系部門 標準仕様の読解・要約	生産管理 - プロセス設計/品質管理力 - 規格実装力	営業/企画 - 業界ビジネスモデルの理解 - 経営知識
	※入社時に標準化部署に配属は僅少					



To Be (あるべき) のキャリアパスにおいて、ステップアップに必要な経験

よって、ステップアップのためには各類型に必要な経験を該当部門で積む必要がある



全社横断での取組が必要であるため、トップ層のコミットメントが大前提



あるべき標準化人材のペルソナイメージ (まとめ)

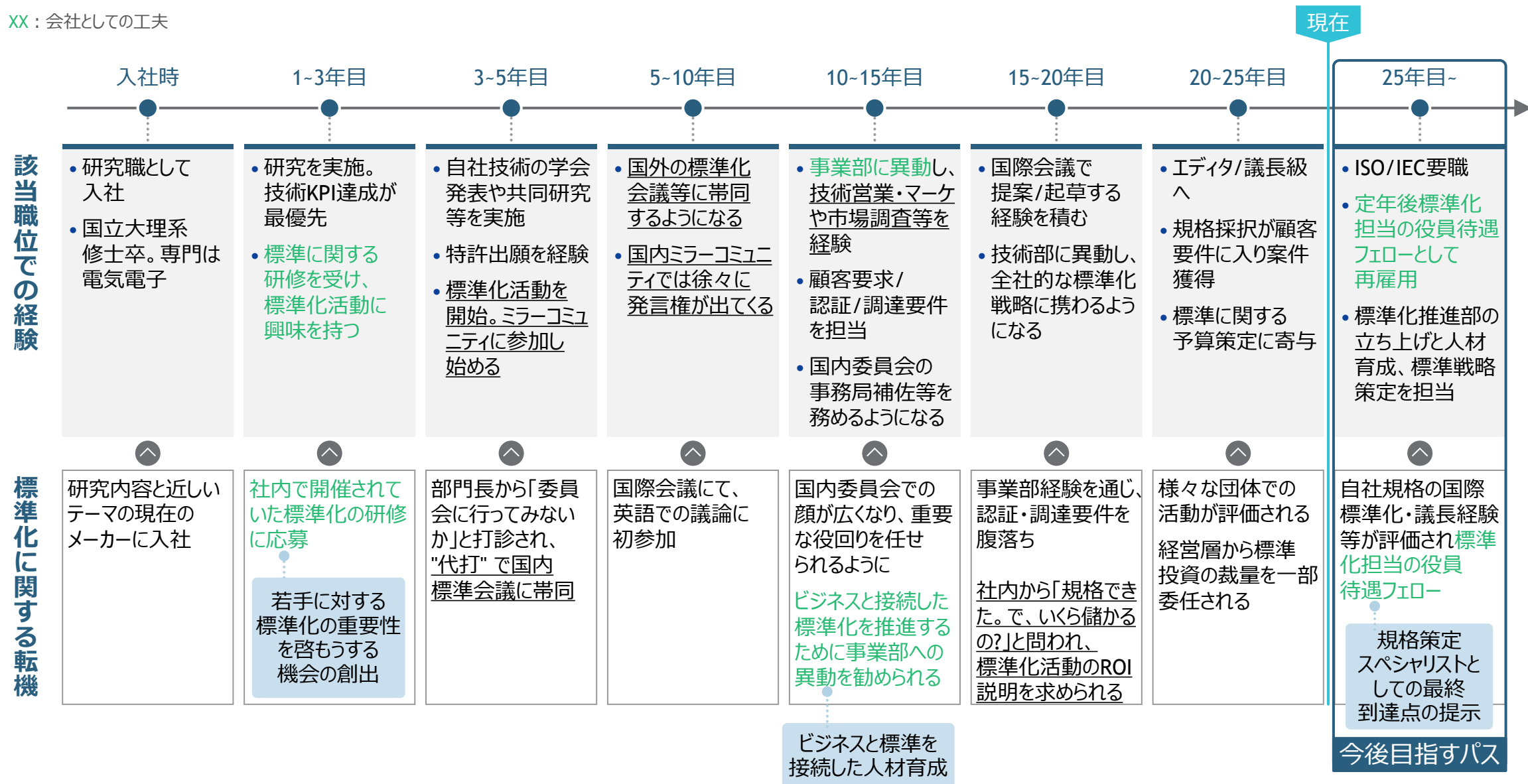


	a スペシャリスト型 (規格策定) 	b 統合型 (標準/知財軸) 	c 統合型 (技術軸) 	d 統合型 (事業軸) 
プロフィール	• a氏 (50歳) • 大手製造(電機・装置) 国際標準化推進室 主幹 • ISO/IEC TC等 エディタ・議長	• b氏 (40歳) • 大手電機メーカー 知的財産部 • 弁理士資格保有 • 業界の知財・標準化委員会で要職	• c氏 (45歳) • 大手デバイス企業 技術企画部門 • 米大学MOTを保有	• d氏 (45歳) • 大手工作機械メーカー 取締役 執行役員 CSO • 米大学MBAを保有
大学時代の専攻・バックグラウンド	• 国立大理系修士。専門は電気電子 • 研究室推薦で現在の企業に入社	• 国立大学工学部出身。専門は材料力学 • 国際学会や論文執筆経験多数	• 国立大理系修士卒。専門は情報工学 • 修士時代に国際学会への参加や論文執筆経験等も多数 • 大学時代に留学経験あり	• 私立大学経済学部出身 • 帰国子女
入社後のキャリア (サマリ)	• 研究職として入社、自社技術の学会発表や共同研究等をリード • 事業部にて標準化戦略にも携わる • 自社規格の国際標準化・議長経験等が評価され、定年後標準化担当役員として再雇用	• 研究職として入社したのち、3年目から知財部にて、特許出願・権利化を担当。5~10年目で働きながら弁理士資格を取得 • その後、標準化推進部・事業企画を経験し、オープンクローズ戦略を設計	• コア技術の発明で成果を出しつつ、特許出願を回す (5年) • その後、技術企画部門にて標準化とIP戦略を設計する • 留学や駐在等で豊富な海外経験	• 入社時は、B2B営業を担当 (2年) • 経営企画への配属を機にMBA留学 • 経営企画部にて、標準化推進部と連携しつつルール形成戦略を担当 • その後、標準に係る実績が評価されCSOに
標準化に関するキャリア・転機 (サマリ)	• 海外案件の失注を機に事業側へ。認証・調達要件を腹落ちさせて標準へ再合流した • 国内委員会の事務局補佐 → 国際会議で提案/起草 → エディタ/議長級へ	• 競合とのライセンス交渉や SEP 対応の中で、「特許を取るだけでは守れず、どこを開きどこで稼ぐかの設計が必要」と痛感し、標準化活動への関与を深める	• 入社当初からコア技術の開発に携わり、特許化・標準化にも業務内で触れてきた • 研修をきっかけにMOT留学を決意 • 会社としても標準化を推進する方向になったため、標準化推進部の立ち上げ・拡大に貢献	• 管理職になる前の研修の際に標準に興味をもち、標準化活動を行うようになる • 自身の海外経験を活かし、標準化で成果を出し、CSOとなる

a スペシャリスト型 (規格策定) のキャリアパス



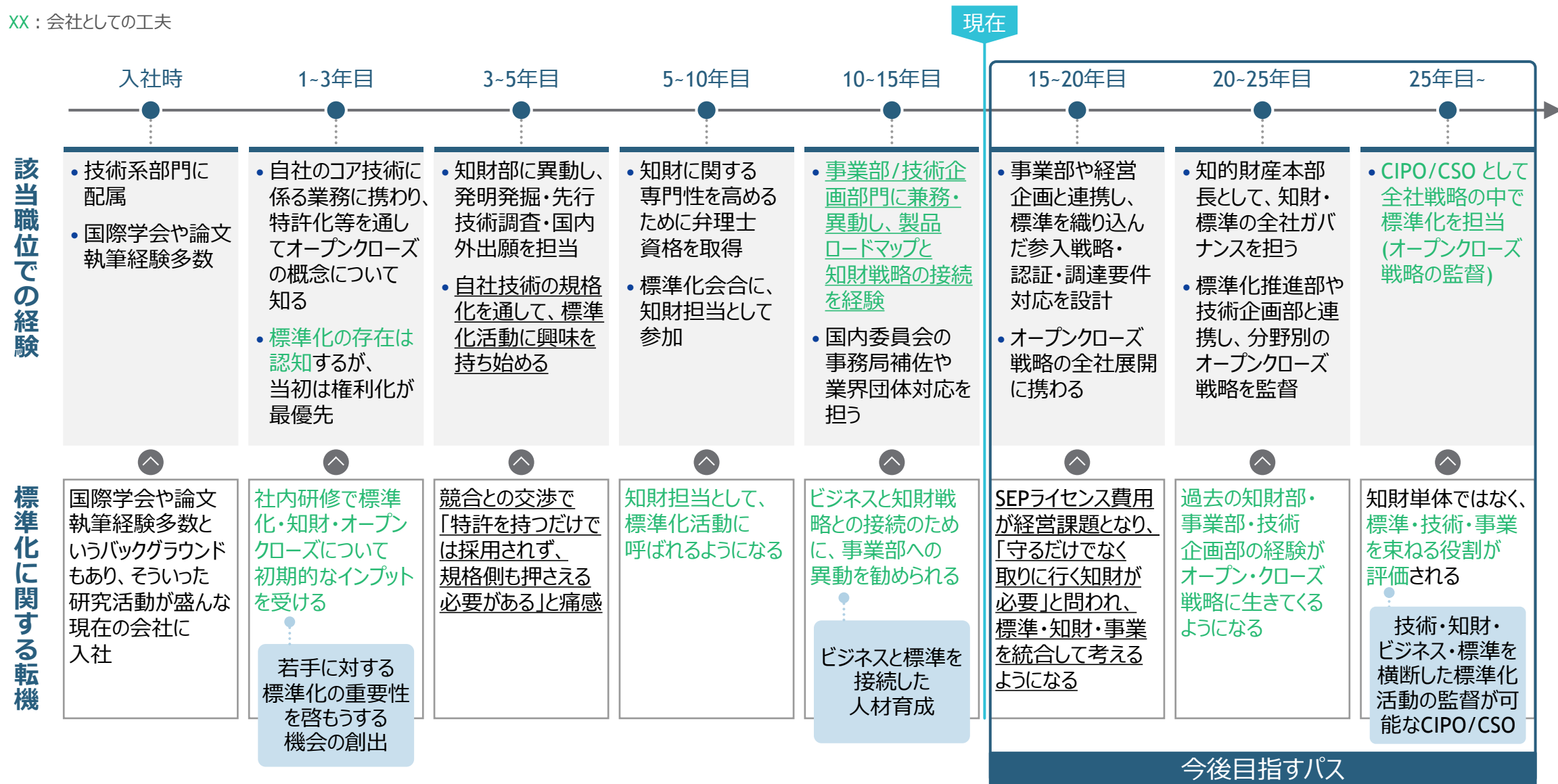
XX : 会社としての工夫



b 統合型 (標準・知財軸) のキャリアパス



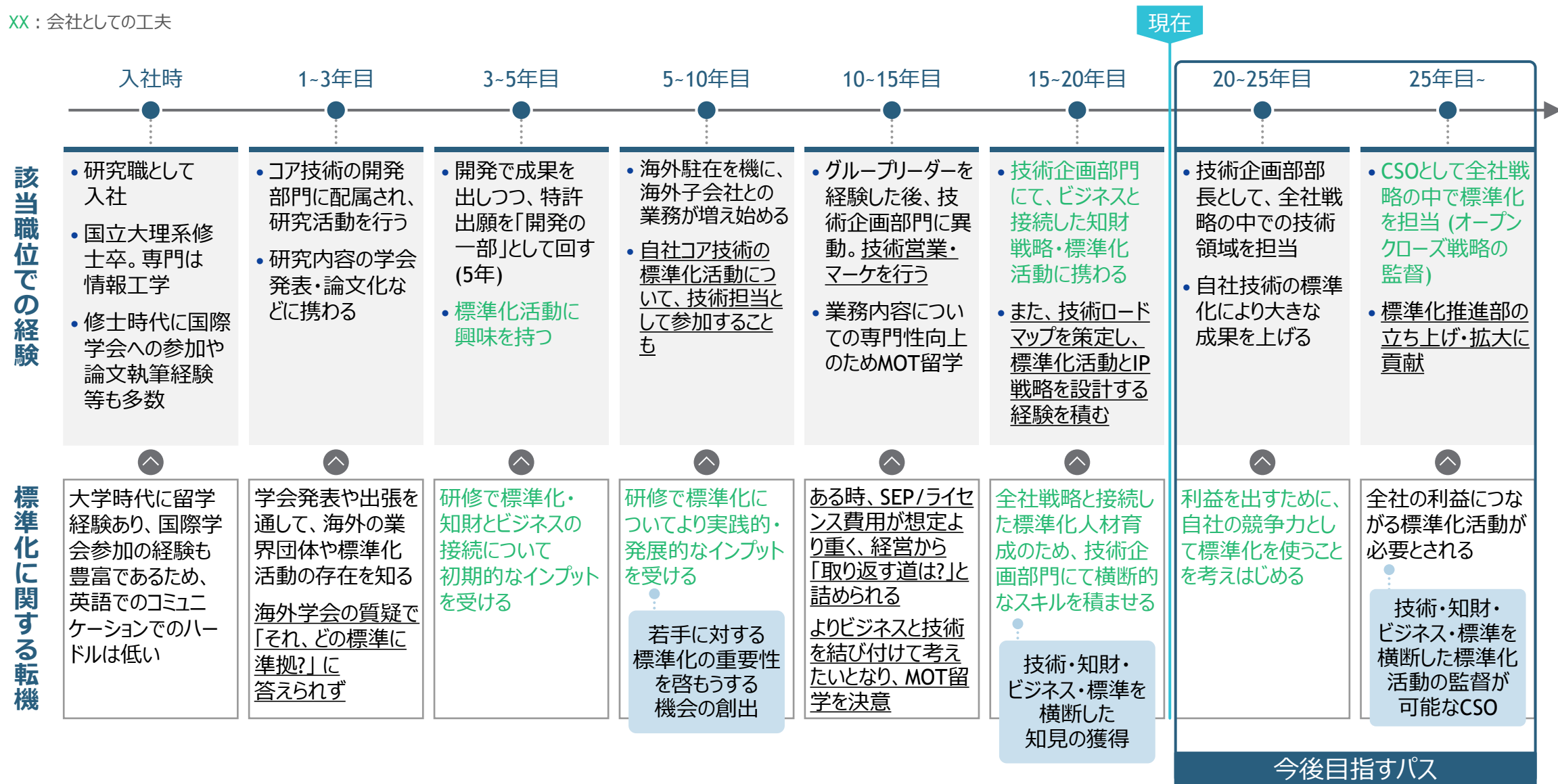
XX : 会社としての工夫



③ 統合型 (技術軸) のキャリアパス



XX : 会社としての工夫



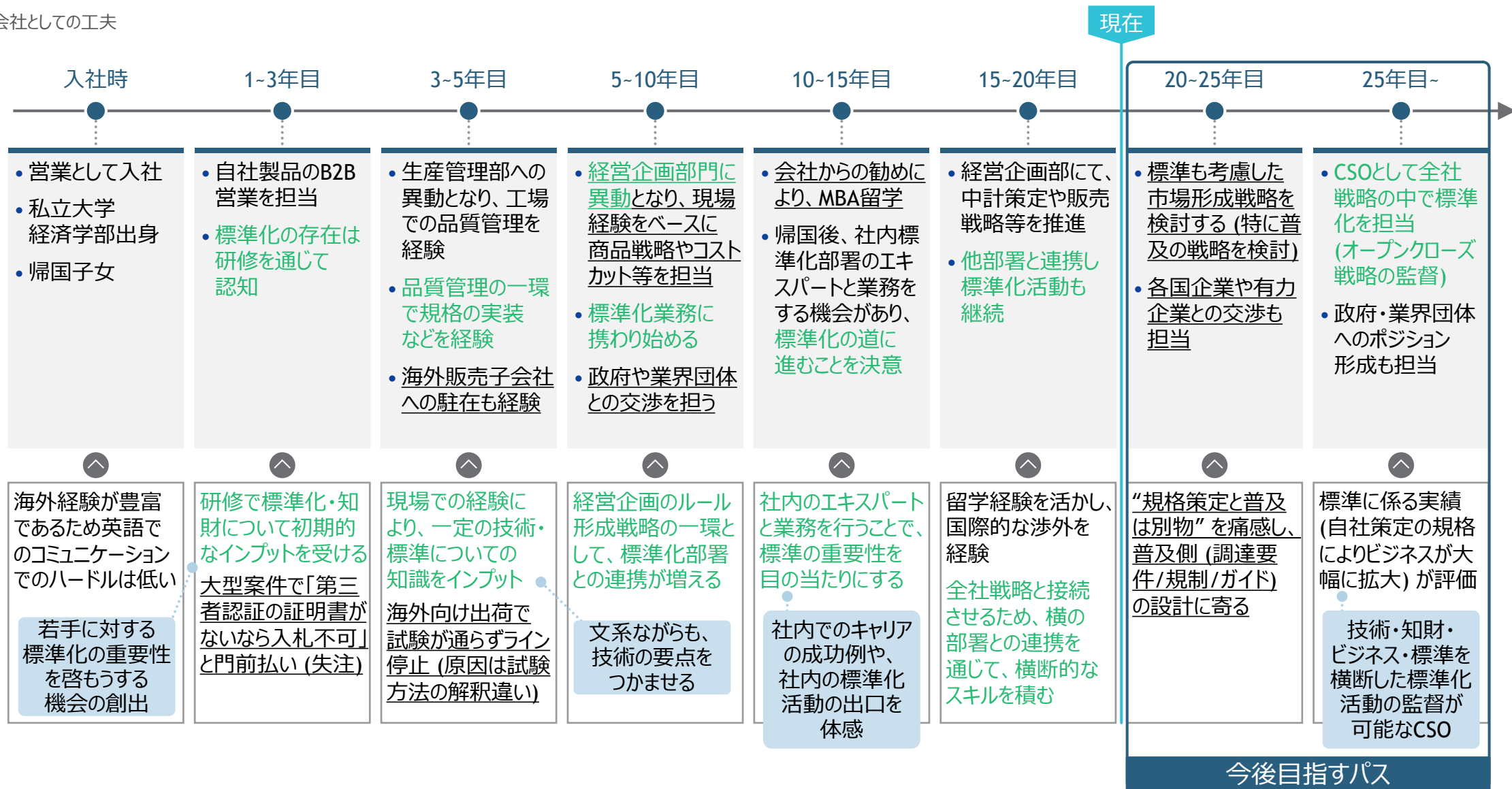


d 統合型 (事業軸) のキャリアパス

XX : 会社としての工夫

該当職位での経験

標準化に関する転機





(参考) 実際の事例に基づくキャリアパスのイメージ



A氏 (規格策定スペシャリスト型)

年次	役割・担当業務
～5年目	- 大手精密機器メーカーの海外研究開発拠点に着任 - 電子デバイス関連の先行開発、試作評価、現地エンジニアとの共同開発、技術議論のファシリテーションを担当
5～10年目	- 本社の技術戦略部門へ異動。製品開発と評価技術を横断しながら、全社技術戦略と標準化テーマの整理を担当 - 業界コンソーシアムや国内委員会に参画
10～15年目	国際標準団体で幹事補佐級の役割を担う。英語での会議運営、各国コメント対応、論点整理、合意形成を推進
15～20年目	周辺領域の国際委員会にも活動を拡大。規格検討、適合評価、実装ルール設計を支援
20～25年目	- 中小の計測機器メーカーに転職し、研究開発・技術部門の責任者に就任 - 製品企画、育成、標準対応、社外委員会対応を統括
25年目～	- 技術アドバイザーを経て独立 - 標準化戦略、評価法設計、国際会議対応、人材育成、産学官連携の助言を提供



B氏 (統合型：技術×事業)

年次	役割・担当業務
～5年目	大手通信事業者の研究所に入社。通信プロトコルやネットワーク基盤の研究開発、実験環境構築、性能評価を担当
5～10年目	- 通信系の標準化テーマに関与 - 提案資料作成、社内研究成果の規格文書化、標準化会合向けの論点整理を担当
10～15年目	- コミュニティ対応、社内外の技術調整を推進 - 欧州拠点へ赴任。国際標準機関や業界団体との折衝、相互接続ルールの標準化、試験仕様整備を主導
15～20年目	本社の標準化推進組織へ異動。国際会合で得た情報の社内展開、重点テーマ選定、経営層向け説明資料作成を担当
20～25年目	技術戦略部門のマネジメントを担う。技術ロードマップ整理、投資優先順位づけ、標準化と事業戦略の接続を推進
25年目～	技術部門の責任者として、通信の国際標準プロジェクト対応、社内技術部門の横断調整、相談案件レビューを統括



(参考) 経済産業省における標準化人材の類型

経済産業省は、「戦略構築」、「規格開発・交渉」、「規格活用・普及」の3フェーズに分類し、標準化人材についてもこれに基づき分類

主な支援施策等



(参考) 標準化人材の類型

類型

主な内部人材の例

標準化戦略人材

①企業の経営戦略として、標準化の活用方法を考える人材

- 経営層～事業部門
(経営企画部、研究開発部、知的財産部、マーケティング部等)

規格開発・交渉人材

②規格の原案作成や国際会議での交渉を行う人材

- TCなどの幹事や議長、原案作成可能なエキスパート
(技術者、研究者や品質保証担当、国際交渉人材の組合せ)

活用・普及人材

③制定された規格の活用のための地合いづくりに取り組む人材

- 渉外部や海外事務所等、国内外のロビイングを担当する者
- マーケティング担当

Agenda

- 1) コンテンツ産業における国際標準化の活用可能性の調査・分析
- 2) 標準人材のキャリアパスに向けた調査・分析
- 3) 海外における国際標準化支援策の調査・分析
- 4) 成長戦略の観点からの国際標準活用事例、公共調達・補助金活用事例、国際標準に係るデータ整備の調査・分析

各国の予算措置状況まとめ (一定の仮定を置いて集計した値)



標準化
予算額

- 166.2 M EUR (287億円)
- ①SMP: 35.2 M EUR
 - ①Horizon Europe: 104 M EUR
 - ⑤European Defence: 27 M EUR

- 2,475億KRW (247.5億円)
- 科技情報通信部: 1,321億KRW
 - 産業部: 654億KRW
 - 保健福祉部 等: 229億KRW
 - 等...

- 228 M GBP (456億円)
- DSIT: 153 M GBP
 - OPSS: 62 M GBP
 - BSI: 8 M GBP
 - 等...

集計の概要

MFFの各項目のWork programme
(実施計画書)を対象に分析

第5次国家標準基本計画に基づく
最終実施計画に関する文書をもとに
分析

公開されている51省庁を対象に
Annual Reportを分析

各標準化関連予算の判断基準

	フラグ	定義
標準化の 関連の種類	A	Title/Scope冒頭等standardisation/standards/ISO/IEC/CEN/CENELEC/ETSI等が主目的として明示 (他目的に従属せず) されているもの
	B	目的/取組の一部として、standardisation/standards等が含まれるもの (他の要素も含んだ値)
	C	既存の国際標準の実装・調和・展開を支援するもの
標準化の 対象範囲	i	ISO/IEC/ITU等、国際標準化への意図が明確であるもの
	ii	各国内 (EU) での標準化を企図したもの
	iii	standardisation/standardsの語はあるが、範囲の種別は特定できないもの



標準化の要素を含むEUのプログラム(Heading1) [1/4]

プログラム名		金額 ¹	標準化の種類	標準の範囲	含まれる標準化の要素
HORIZON-WIDERA-2026-06-ERA-03:	Strengthening ecosystems for open, ethical, and sustainable ERA	€6.00m	B	iii	- データ共有・再利用を通じたオープンサイエンス推進を目的とする構造政策 “New standards, recommendations, and methodologies” や “development of standards, tools, and services” が明記されており、既存標準への準拠ではなく、新たな標準や指針の策定を含む標準化活動が想定されている
HORIZON-MISS-2026-01-CLIMA-03	Standardising and supporting climate services for climate adaptation	€9.20m	A	iii	- 本プロジェクトは、EU の気候変動適応ミッションおよび将来の欧州気候適応計画の実施を支援することが目的 - EU 全域で参照される気候データおよびシナリオの選定・統合に関する方法論を高度化するとともに、気候サービスの標準化と品質向上を通じて、気候適応に関する政策立案および意思決定を支える
HORIZON-CL4-2026-04-HUMAN-01	Developing and demonstrating core technologies for Virtual Worlds and Web 4.0 (IA) (Virtual worlds Partnership)	€30.0m	B	iii	- XR などの没入型・対話型技術を通じて、バーチャルワールドと Web4.0 の統合を推進し、リアルタイムかつシームレスなデータ交換とユーザー操作を可能とする技術基盤の構築を目指すプロジェクト - 将来の Web4.0 移行を見据え、異なるシステム・プラットフォーム間の相互運用を実現するための技術標準、共通データ形式、通信プロトコルの開発を推進する

Note : 2026を対象期間としたもの。完全な標準化活動以外のものも含まれる
Source:[11. Widening participation and strengthening the European Research Area](#); [12. Missions](#); [7. Digital, Industry and Space](#);



標準化の要素を含むEUのプログラム(Heading1) [2/4]

プログラム名		金額 ¹	標準化の種類	標準の範囲	含まれる標準化の要素
HORIZON-CL4-2026-04-HUMAN-02	Web 4.0 architectural framework and Open Internet Stack applications for virtual worlds (RIA)	€16.8m	B	iii	- Web4.0 およびバーチャルワールドの実現に向け、欧州および国際レベルでの技術基盤形成を目指すプロジェクト - 標準、プロトコル、コンポーネントおよびそれらの相互作用に関するフレームワークを含む、Web4.0 のアーキテクチャ的枠組みとバーチャルワールド向けソリューションの構築を目指す
HORIZON-CL5-2026-03-D3-19	Affordable and sustainable primary equipment for Future- Ready multi-terminal HVDC Systems	€24.0m	B	iii	- 将来対応型のマルチターミナル HVDC (高電圧直流送電) システムに向けた一次設備の開発・実証を通じ、欧州における HVDC インフラ拡大と EU のエネルギー転換を支援するプロジェクト - Scope では標準化団体への貢献が求められており、モジュール化や標準化を通じて設備の相互運用性およびコスト効率の向上を図ることが明示されている
HORIZON-CL6-2026-01-CIRCBIO-03	Advanced recovery of critical raw materials from Waste from Electrical and Electronic Equipment (WEEE)	€10.0m	B	iii	- 廃電気電子機器 (WEEE) から戦略的・重要原材料を回収する技術開発を通じて、欧州の資源循環および原材料供給の強靱化を目指すプロジェクト - 活動要件として、リサイクル原材料の品質・コスト・安全性を確保するための標準、技術、プロセスの開発が明示

Note : 2026を対象期間としたもの。完全な標準化活動以外のものも含まれる
Source:[7. Digital, Industry and Space](#); [8. Climate, Energy and Mobility](#); [9. Food, Bioeconomy, Natural Resources, Agriculture and Environment](#)



標準化の要素を含むEUのプログラム(Heading1) [3/4]

プログラム名		金額 ¹	標準化の種類	標準の範囲	含まれる標準化の要素
HORIZON-CL6-2026-01-CIRCBIO-08	supporting pre-normative research for standardization of the bio-based products	€8.0m	A	iii	- バイオベース製品の標準化に向けた規格化前研究 (pre-normative research) を中核とし、標準策定に必要な研究開発を通じて持続可能なバイオベース製品の市場導入を促進するプロジェクト - 研究全体が pre-normative research として位置付けられており、標準化そのものを直接の目的とする取組
Single Market Programme (SMP) 33. STANDARDISATION 3.020301	European standardisation	€23.5m	A	ii	- 標準化を通じて EU 単一市場の効率性および機能性を高めることを目的とした活動に対する予算措置 - CEN、CENELEC、ETSI によって実施される欧州標準化活動への支援が明示されており、標準策定そのものを直接的に対象とする取組
Single Market Programme (SMP) 33. STANDARDISATION 3.020302	International financial and non-financial reporting and accounting standards	€10.0m	A	i	- 国際的な財務報告・サステナビリティ報告・監査基準の策定および公的監督を支える標準化関連予算であり、IFRS Foundation、EFRAG、PIOB への直接助成で構成 - IFRS 基準のエンドースメント支援や ESRS 草案策定など、標準策定機関への直接支援が明示されている

Note : 2026を対象期間としたもの。完全な標準化活動以外のものも含まれる
Source;; 9. Food, Bioeconomy, Natural Resources, Agriculture and Environment;1d344e77-328c-4dcd-b687-96e4e24ad63f_en



標準化の要素を含むEUのプログラム(Heading1) [4/4]

プログラム名		金額 ¹	標準化の種類	標準の範囲	含まれる標準化の要素
SMP Work Programme 2026-2027 (Internal Market, Standardisation, Consumers) - Annex 1 2.2.2.2	European Cooperation for Accreditation (EA) - Operating Grant	€0.80m	A	ii	- EU の認定制度を支える欧州認定協力機構 (EA) の円滑な運営を確保するための運営助成 - 規則 (EC) No 765/2008 第14条(6) に基づき、EA に対する既存 FPA を通じた運営助成が明示
SMP Work Programme 2026-2027 (Food, Animal, Plant Health - One Health) 4.2	FAO-IPPC: International Plant Protection Convention	€0.50m	A	i	- FAO 国際植物防疫条約 (IPPC) の 2020-2030 戦略に基づき、植物検疫に関する国際基準の策定・普及および能力構築を支援する EU の取組 - EU 予算項目において “support to International Plant Protection Convention (IPPC)” が明示されており、国際基準の策定・実施を通じた IPPC 活動への制度的支援が位置付けられている
SMP Work Programme 2026-2027 (Food, Animal, Plant Health - One Health) 4.6	FAO/WHO Scientific Advice to Codex Alimentarius	€0.4m	B	i	- Codex Alimentarius (国際食品規格) の策定を支えるため、FAO / WHO が実施する科学的助言活動に対して EU が支援を行う取組 - 専門家による科学的評価への資金拠出を通じて国際食品安全基準の策定を促進しており、Codex が依拠する科学的助言を通じた間接的な標準化支援と位置付けられている

Note : 2026を対象期間としたもの。完全な標準化活動以外のものも含まれる
Source:[1d344e77-328c-4dcd-b687-96e4e24ad63f_en](#); [0e3ea843-045d-4a85-850e-76cb39d62cd1_en](#)



2025年国家標準実施計画の内訳 [1/2]

管轄	主な取り組み	金額 ¹
産業部	「先端産業 国家標準化戦略」の履行 - AI、半導体など12の先端分野で国際標準40件を提案する等 「国際AI標準サミット」開催、APEC「AI標準フォーラム」創設 - 輸出有望品目における海外試験機関・国内機関間の相互協約拡大 - 標準融合講座の新設、修士・博士レベルの標準専門人材育成 - 産業・エネルギー分野においてR&D初期段階から標準化を並行実施	654億KRW
科学技術情報 通信部	6G、サイバーセキュリティ等ICT核心新技術分野の標準開発 - ICT標準専門家の育成（ICT標準人材等） - 科学技術の信頼性向上のための測定標準（機器等）開発・普及 - ICT分野においてR&D初期段階から標準化を並行実施	1,321億KRW
中小ベンチャー 企業部	中小製造企業のコア工程・設備のデータ互換²（相互運用性）のための製造データ標準参照モデルおよびガイド開発	90億KRW
国土交通部	鉄道（車両、用品）、空間情報（デジタルツイン国土³）分野の標準化	73億KRW
行政安全部	CCTV、登山道、駐車場等の公共データ提供標準の拡大	20億KRW

1. 2025年度の国家標準実施計画に基づく 2. 工程（鋳造、熱処理等）および設備（工作機械、射出成形機等）のデータ表現方式 3.道路、橋梁、航空写真、上下水道、地下鉄等を統合した3D統合地図
Source: [첨단산업 신시장 선점, 범정부 표준역량 총결집](#)



2025年国家標準実施計画の内訳 [2/2]

管轄省	主な取り組み	金額 ¹
環境部 雇用労働部 文化体育観光部	産業安全、環境（生活騒音等）、文化コンテンツ（公演等）分野における国家標準開発	64億KRW
農林畜産食品部 海洋水産部 食品医薬品安全庁	- 加工食品（フードテック技術）、農畜産食品、水産食品の安全確保のための国家標準開発 - AI適用医療機器評価に関する国際標準提案	24億KRW
保健福祉部 ほか7省庁	- 診療情報交換のための電子医療記録システム認証の実施および感染症・慢性疾患検査用標準物質の開発 - 公共調達物品情報提供の強化等	229億KRW
合計		2,475億KRW

Note : 2025年度の国家標準実施計画に基づく
Source: [첨단산업 신시장 선점, 범정부 표준역량 총결집](#)



標準化の要素を含むUKのプログラム [1 / 2]

プログラム名		金額 ¹ (million GBP)	標準化 の種類	標準の 範囲	含まれる標準化の要素
Department for Science, Innovation and Technology	National Measurement System	152.701	A	iii	- 英国政府が資金提供する国家計量基盤プログラム - 計測標準や校正・研究を通じて国内の測定精度と国際整合性を確保することを目的
British Standards Institution	Government Grants	8	A	i / ii	- 英国の国家標準化機関（NSB）としての役割 - 英国代表として、ISO/IEC/CENなどの国際標準化団体に参加 - 国際規格と英国規格（BS）の整合を重視した活動
The Statistics Board /UK Statistics Authority	Office for Statistics Regulation (OSR) budget	3.37	A	ii	- OSRは英国統計局配下の独立規制部門として、英国の公式統計について信頼性・品質・価値を確保するために、統計の作成および公表プロセスを監督・評価する役割を担う組織 - OSRが公式統計の標準を策定・設定し、その遵守を前提に統計の品質を統一的に管理する枠組み
Department for Science, Innovation and Technology	Technical digital standards (UK contribution)	Not stated	A	iii	技術的なデジタル標準の策定、および当該標準の策定に対する英国の貢献を高めるための取組

Note : 2023-2024を対象期間としたもの。完全な標準化活動以外のものも含まれる
Source: uksa.statisticsauthority.gov.uk/wp-content/uploads/2024/07/Annual-report-and-accounts-2023-24-1.pdf ; [Department for Science, Innovation and Technology - Annual report and accounts 2023-24](#)



標準化の要素を含むUKのプログラム [2/2]

プログラム名		金額 ¹ (million GBP)	標準化 の種類	標準の 範囲	含まれる標準化の要素
Office for Product Safety and Standards	Budget from DBT・MHCLG・DefRA	62	B	ii	- 製品安全基準局（OPSS）は DBT傘下の組織であり、英国の国家製品規制当局であり 英国の製品規制システムの中核を担っている - 英国規格・標準への適合性を監督 - 業務で参照する規格・標準についてのフィードバックをBSIに対して行う
Department for Science, Innovation and Technology	Support for technology firms (incl. standards)	Not stated	B	iii	- 民間投資の加速を目的に、金融ソリューションを含む支援を通じて、テクノロジー企業の研究開発・イノベーションを促進する取り組み - 標準やベストプラクティスの策定・普及を通じて、持続可能な開発と技術分野の共通基盤を整備する標準化が目的の一部に含まれる

Note : 2023-2024を対象期間としたもの。完全な標準化活動以外のものも含まれる
1.本プログラムのみBudgetの金額を計上。また、most of 62 millionと記載され、62million GBPのうち政府拠出が占めている具体的な割合は不明)
Source: ; [Department for Science, Innovation and Technology - Annual report and accounts 2023-24](#) ; [committees.parliament.uk/publications/43702/documents/216869/default/](#) ; [bsi-annual-report-2024.pdf](#) ; [OPSS Delivery Report 2023-2024 - GOV.UK](#)

Agenda

- 1) コンテンツ産業における国際標準化の活用可能性の調査・分析
- 2) 標準人材のキャリアパスに向けた調査・分析
- 3) 海外における国際標準化支援策の調査・分析
- 4) 成長戦略の観点からの国際標準活用事例、公共調達・補助金活用事例、国際標準に係るデータ整備の調査・分析

「成長戦略の観点からの国際標準活用事例、公共調達・補助金活用事例、国際標準に係るデータ整備の調査・分析」の取組概要

仕様書の記載に従い、標準活用促進調査業務の請負事業者 (ペガサス社) に対し、下記のとおり打ち合わせを行いつつ、必要な助言・指導を複数回にわたり実施した

[各打ち合わせにおける主なアジェンダ]

- 初回打ち合わせ/現状の確認
- 目指すべきアウトプットイメージの提示
- アウトプットイメージに基づく調査結果の議論①、ヒアリングの進め方
- アウトプットイメージに基づく調査結果の議論②、ヒアリング結果のご共有
- 調査結果のまとめ



bcg.com